水明インターネット句会（選句・句評）　令和三年一〇月

1	京子	地獄までついて来るのか秋茜 上五が秋茜の種の繁殖の激しさを表している。	古賀由美子
2		散弾のやう雀飛び出すひつじだや	杉浦理恵
3	るみこ マスミ	ほとばしる沢に寄り添ふ照葉かな 美しい景を感じる。紅葉は水辺から始まる。清流に映える照葉の艶やかさ	秋野風舎
4		軍属に遺族年金十三夜	菊池ひろこ
5		焼き栗の煙の匂ひ維納愛憎	網野月を
6	静香 京子	しばらくは傍にいるよと秋夕焼 淋しさの中に暖かさがある。上五、中七が季語の寂しさ、時間の短さを適確に導いている。	新井のり子
7	粉雪 萬蝶	モンブラン頂の栗いただきます 頂きといただきます、いただけました。山とケーキの二つのモンブラン、景の大小が良い。	本橋稀香
8	朝香 道を 萬蝶	溜息に訳などなくて蚯蚓鳴く 秋の夜はなんとなく憂いを感じる事がある、季語の斡旋が良い。ふっと出たため息を上手に詠まれている。確かに納得。季語がぴったり。	青木鶴城
9	芳春	優勝旗かかげて来るや天高し 季語が効いています。本当に勝てそうな気がしてくる晴れ晴れとした句です。	後記朝香
10		錦木よ心に響けかさこそと	望月のぞみ
11	修 喜夫	ほらママと椎の実見せる小さき手 具体的に表現して景が見え小さき手の措辞が見事。椎の実の使い方が上品です。	木村るみ子
12	翔太	虫の音と耳鳴りを聞く散歩道 耳鳴りと虫の音との比較に実感がある。年は取りたくないものです。	井口俊晴
13	清吉 舎風 晴俊	頭から藁塚へ突つ込む雀かな 故郷の田園風景が目に浮かぶ。軽く詠まれていますが、心温かく素直な気持ちが伝わってきます。元気いっぱいの雀が愛らしい、頭から突っ込むがうまい。	後藤允孝
14		ロープウェイ麓はいまだ薄紅葉	反町　修
15		亡き友に新酒たづさへ逢ひにゆく	元田亮一

水明インターネット句会（選句・句評）　令和三年一〇月

16	るみ子	白帝や湖面彩る男体山	季語の力を感じる。	保坂翔太
17	由美子 允孝 芳春 マスミ 鶴城	雲行きを見やる案山子の思案顔	メルヘンですね。案山子の顔が優しい。雲行きのあやしくなった様子が案山子から伺えます。ユーモラスながら収穫への様々な思いが伝ってきます。実直な農夫への敬意と愛情がユーモラスに表現されていて良い。	山中いちい
18		一村をいだき連山朝の霧		大橋迪代
19	るみこ	神木に手を添へ祈る秋深し	季語と心情。	村杉清吉
20		ヤッホーのこだま往き交ふ木の実晴れ		澤田裕之
21		紅葉の山に座したる墓一つ		奥山粉雪
22		秋澄むやトトロ現る森の奥		日高道を
23	亮一 のぞみ	萬月を恐れぬ吾子の夜泣きかな	古来崇拝の対象である満月と夜泣きとの対比が面白い。偉大な月よりも、激しく夜泣きする子の生命力の強さ。	河野はるみ
24	允孝 朝香 はるみ	残照にたまゆら燃ゆる蔦紅葉	太陽の落ち際の蔦の色合いがでています。たまゆらが良いですね。秋の暮の一瞬の美しさが詠まれていて、余韻が残る。中七と蔦紅葉が素敵。一幅の絵が浮かぶ。	丸山マスミ
25		仄暗きくぐりに落つる後の月		持永喜夫
26	静香	ハロウィンのチャイルドシート意気盛ん	嬉しさが伝わってくる。	岡田芳春
27		起き抜けの白湯なつかしき寒露かな		小林京子
28		同棲の早や二十年吊し柿		正木萬蝶
29	吉を 清月	呟きに真実があり柘榴の実	石榴に寄せた心境が良く表現されている。実の赤色が目に浮かぶようです。	野田静香
30	朝香 俊晴 鶴城	団栗に小さな神の棲んでをり	自然界の生き物には皆、神が宿っていると感じさせる句。秋の実りには、人知を超えた神の意志があることを団栗に託して秀逸である。中七の「小さな神」に深い配慮が見える。	古賀由美子

水明インターネット句会（選句・句評）　令和三年一〇月

31	新米を載せてぐらぐら漕ぐ愛車	ほっこりとした情景が浮かび癒される。うららかな秋の一日、魚が釣れるのを待って、釣り人の手元を見つめている猫の心理描写が巧みだ。「秋日」はｓｕｎではなくて、ｄａｙと解釈しました。	杉浦理恵
32	釣り人を猫の見つめる秋日かな		秋野風舎
33	焦げる前もっとも甘し焼林檎	美味しそう。思わず匂って食べたくなりました。	菊池ひろこ
34	海幸を煙の中に後の月	幸と十三夜との取り合わせが新鮮。	網野月を
35	キリストや桔梗の青にこころ寄せ	青は藍より出でて藍より青し、次の代へ。	新井のり子
36	月美しく帰心のかぐや止めざる	月への賛嘆から、発想をかぐや姫の帰心に飛ばしたのが良い。	本橋稀香
37	古疵に効かぬ膏薬冬隣	高年にさしかかった作者のぼやきと、年には負けぬとの気概。抑制の効いた優れた心情句。えも言われぬ諧謔横溢。若いときには感じなくても歳を重ねると古疵は痛むもの、冬隣の。膏薬の乾燥と古傷に季節と人生の時間を感じます。	青木鶴城
38	よき風に風船葛遊び出す	よき風と遊び出すが穏やかな秋の風情を醸し出している。	後記朝香
39	辛き夜や鈴虫たちの応援歌	鈴虫の鳴声を応援歌と表現して辛き夜に照応	望月のぞみ
40	公園の裸婦像光る秋夕焼		木村るみ子
41	まんまるな金婚式の夜半の月	「まんまる」の形容が金婚式に相応しい。ひらがなの「まんまる」に５０年の歳月を感じる。夜半の月に人生の半分を感じる。柔らかな表現が良い。穏やかで目出度くしみじみと。	井口俊晴
42	五合目の霧の中へと葉書出す	とても惹かれました。いろいろ想像します。登山する人の実体験と思う霧の中に葉書を出すが、幻想的。	後藤允孝
43	稜線の釣瓶落しや頭垂る		反町　修
44	積み重ねまた積み重ね秋の灯に		元田亮一
45	枝打ちの北山杉や天高し	枝打ちのあと上を見れば青空が一段と高くなった様良いですね。季語が効いており北山杉も青空に高く伸びている。端正で爽快なる句柄。	保坂翔太

31	
32	清晴俊吉月を
33	由美子
34	道を
35	京子
36	マスミ
37	舎代太夫風廸翔喜
38	亮一
39	修
40	
41	亮一はるみ萬蝶
42	由美子稀香
43	
44	
45	允孝修廸代

水明インターネット句会（選句・句評）　令和三年一〇月

46　のぞみ

会えぬまま電話で聴き入る虫時雨

コロナ禍で、感染なしの電話で、友人たちとの触れ合いが、楽しくもあり、心強くもあり。

山中いちい

47　鶴城 喜夫

ほしづく夜最期の母へ黒田節

黒田節で送られる母君、何と幸せな最期。どの星になったのだろうか。澄みきった秋の夜空に黒田節が聞こえます

大橋迪代

48

山峡の谷川澄みて草紅葉

村杉清吉

49

苔の寺露の光のシンフォニー

澤田裕之

50

墓石の肩に寄り添う紅葉あり

奥山粉雪

51　翔太

長き夜や噂話につく尾鰭

噂話には尾鰭は付きものなのでしょう。長き夜の取り合せがよい。

日髙道を

52

色変えぬ松並木かぞふや万歩計

河野はるみ

53　風舎 稀香 粉雪

ロ三味線流るる路地や十三夜

少し寒さが感じられるなか、ほろ酔で路地を歩く姿が浮ぶ。季語と上中の組み合わせの相乗効果。着流しの粋な男性がおもい浮かぶ．粋な感じが流れます。

丸山マスミ

54　静香

小鳥来る喧騒の後の駅灯り

季語と駅灯りの取り合わせが良い。

持永喜夫

55　はるみ

湯上りの震度5強神の留守

神の留守の落ちが良い。

岡田芳春

56　稀香

風呂焚きの最後に浸かる十三夜

木をくべながら月を見上げる

小林京子

57　芳春

ヒジャブ剥ぎ髪のたわわよ石榴笑む

「ヒジャブ」「石榴笑む」魅力的なムスリムの女性が見えました。

正木萬蝶

58　道を 独代 のぞみ 粉雪 月を

秋夕焼鬼いなくなるかくれんぼ

秋の夕暮れの子供達の様子が上手に詠まれている。滝平二郎の切り絵を彷彿余情あり。子どもの頃、路地裏で遊んだ記憶がよみがえりました。暮れが早くて、鬼の方が怖くなってしまったのですねー。旧仮名遣いなら「ゐなくなる」だろうと思いました

野田静香